

# 道東ブロックトレセン U-12 交流試合 報告書

期日 平成 23 年 5 月 21・22 日

会場 十勝川河川敷 サッカー場

## 1. 参加選手 (16 名)

山崎悟依、津田和哉、山本涼太、岡田良太、本間柊人、高橋海斗 (T.WEST)、金子凌大、山本昂汰、西澤雄太 (ドリーム)、野瀬龍世 (Rシュペルブ)、土井雅也、廣田優太 (遠矢)、橋本海翔、山田哲大 (コンバット)、八重樫健吾 (朝陽)、川原大輝 (フォルテ)

※ 夏季トレセン参加 23 名から 16 名を選抜

## 2. スタッフ

後藤雅宏、中瀬満、吉田聡、松下大介、新谷昭典、本間彰、高橋雄一 (U-11 と併催)

## 3. はじめに

学年が一つ上がり 6 年生となって初めての交流大会であった。U-11 北村大会の反省を踏まえ、主に中盤での攻防をメインの課題として、ボールコントロール、観て判断すること、守備の個人戦術・グループ戦術、GK を含めた攻撃のビルドアップなどを行ってきた。それらの成果を確認するために最適な大会となった。また、予定されていた試合の他にも交流戦を 2 試合行い、なるべく多くのゲーム経験から、課題を確認しトレーニング還元する場ともなった。

これから毎月行われる道東ブロックトレセン (以下 BTC) の初回ということで、継続した成果・課題の確認を行う場としていくため、選手には継続した評価・反省の機会を行いながら、自身の成長の確認を積極的に行っていく。

なお、8 人でのフォーメーションは 3-3-1 を基本とし、相手の陣形に合わせて変化していった。

## 4. 対戦結果

一日目	二日目
V S コンサドーレ 0 - 5 ●	V S 十勝 B 1 - 3 ●
V S 旭川 A 3 - 0 ○	V S 十勝 A 0 - 3 ●
V S 旭川 B 1 - 1 △	V S 根室 2 - 1 ○
V S コンサドーレ 1 - 0 ○	V S 旭川 1 - 1 △
	V S 網走 2 - 3 ●

## 5, 成果と課題

### <成果>

#### ○ボールポゼッション

⇒ ゴールまでボールをつなげながら運んで行こうというグループ戦術の確認がトレーニングから継続してできていたため、無駄なキックやクリア、タッチやサイドにのがれるキックは少なくなってきた。

#### ○観て判断すること

⇒ 動きだしのタイミングの確認や、「観る・観ておく・観ている」の徹底により、複数の選択肢からよりベターな選択を行うことができてきている。

#### ○守備の個人戦術・グループ戦術・プライオリティの確認

⇒ ボールをいつ奪うのか、どのように奪うのか、またオフ・ザ・ボールの時の守備のプライオリティを確認したことで、効果的にボールを奪い、攻撃へと移ることができた。

### <課題>

#### ●パスやシュートなど技術の精度

⇒ ハイプレッシャーでも精度の高い技術の発揮に再度、課題が残った。特にキック、パスの精度はハイプレッシャー下ではほんの少しのズレが、相手のインターセプトを招き失点することもあった。

□ 基本的な技術のドリルで求めるものを高くするトレーニングを継続する。ノープレッシャー下では確実にいえるよう求める。

#### ●オフENSEのプライオリティ

⇒ 最も優先すべき相手の裏へボールを運ぶことが不徹底のため、遠回りなサイドへの展開とオートマチックなセントリングが見られた。

□ 引き続きプライオリティの確認と徹底を行い、そこに運ぶためのグループ戦術・個人戦術のためのトレーニングを行う。

#### ●フィニッシュを含めたゴール前でのオフENSE

⇒ 中盤までボールを運ぶことができて、ゴール前でのオフENSEの選択が悪いことがあった。また、ゴール前で相手の守備を崩す戦術の確認が少なく、結果得点が少ない。

□ 中盤までの攻防に重点をもってトレーニングを行っていたことが原因と考えられる。トレーニングを工夫しながら実施していきたい。

#### ●GKを含めたビルドアップ

⇒ GKがDFの一員として参加することが少なく、DFからのバックパスの際の選択が悪くなったり、ポジショニングが悪く、スペースを埋められない場面が多く見られた。

□ FPとして練習参加時にはより高い要求をしていく。またGKトレーニングでも、攻撃に関わる意識を高め、ポジション、FPとしての技術を向上させていきたい。

## 6, 全体講評

過去にない悪い結果に終わったU-11大会からの反省を生かし、トレーニングで確認を行いながら試合に臨むことができた。

個のスキルアップを目指すため、夏季トレセンメンバーから最低限ラインの16名での参加により、個々のトレーニング効率が高まったのではないかと考える。これ以降も、選手を入れ替えながら、1つのBTCでの効果的な技術向上を望んでいきたい。

これからのトレーニングの課題等は、前記、成果と課題であげているが、トレーニングとマッチの効果的な結びつきが期待できる、月1回のBTCは非常に効果的であると考え。これから毎月行われ、父母の負担、所属チームへの負担などマイナス面もあるが、プレイヤーズ・ファーストの観点からも理解を求めていきたい。

オフェンス・ディフェンスとも求めていくサッカーの姿は日本全国どこでも同じであると考えられるので、所属チーム、トレセン、NTC、地区トレセン等でも求められていることを、本当に自分ごととしてとらえられるよう求めていきたい。

その一環として、記述しながら自分の考えや疑問点を表現できるよう継続したトレセンノートを導入した。チームでも同様の取り組みを行っている場合もあると思うが、BTCや毎週のトレーニングでの反省や確認を継続的に行うことによって、選手個々のサッカーへの理解力の向上をもとめていきたい。

道東各地並びにコンサドーレ札幌による交流大会は選手へのトレーニング効果が高いと考えられるが、指導者の技術向上ものぞめる大会であると考え。各地の指導者同士の交流は少ないのだが、マッチ間の選手へのトレーニングのようす、ゲームでの選手への声掛け、宿舎での過ごし方など学ぶ点が多く、このような交流大会に指導者として参加でき、我々コーチ自身の成長へとつなげることができたと考え。

最後に本大会に参加するにあたり、多大なるご協力をいただいた各チーム関係者の皆様、日々のトレーニングをさせてくださった保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後ともトレセン活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

文責：釧路トレセン6年担当 後藤雅宏